ワークショップ

ジャーナルプロジェクト

事前講座：
9月3日(土) 1部 10:00–12:00　2部 14:00–16:00 岡山市民会館
掲出期間：
10月31日(月)–11月27日(日) 表町商店街内 2カ所

岡山県内の学生5グループが、岡山芸術交流2022をそれぞれの視点で取材し、新聞としてとりまとめたものを表町商店街に掲示した。学生たちは事前に新聞社からの講座を受講し新聞づくりの基礎を学び、開幕後には展覧会会場での作品鑑賞や来場者へのインタビューを行い、グループで1枚の新聞にまとめた。展覧会の魅力や楽しみ方、専攻分野を通じた作品の深掘りなど、独自目線の新聞を制作し設置した。

参加者

22名

参加団体

岡山市立岡山後楽館高等学校

総社市立総社中学校美術部

岡山県立大学デザイン学部岡北研究室

屋久島おおぞら高等学校

ノートルダム清心女子大学

講師

山本直樹
山陽新聞社NIE推進部 部長

ジャーナルプロジェクト 新聞作成のながれ

事前講座へ参加

01

新聞の目的、新聞づくりの流れ、下調べの大切さ、取材の仕方や記事作成のコツ等、新聞づくりのポイントなどを学ぶ。

各所へ取材

02

作品鑑賞を楽しみながら、作品の撮影や来場者インタビューも積極的に行った。

執筆・編集

03

取材後は見出しや何を伝えたいのか、レイアウトをどうするかを各グループで考え、内容チェックと修正を重ね、紙面を完成させた。

入稿・掲示

04

それぞれの専門性を活かしたオリジナルな新聞をまとめたパネルを制作、表町商店街に掲示した。

岡山芸術交流新聞

OK
okayama art summit 2022
岡山芸術交流2022
パブリックプログラム
ジャーナルプロジェクト

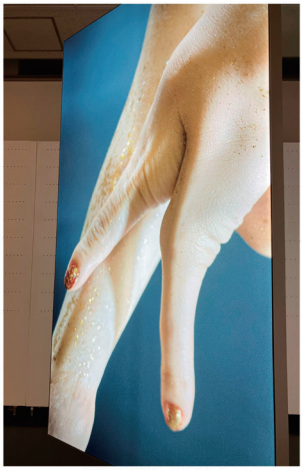
DO WE DREAM UNDER THE SAME SKY

岡山市立
岡山後楽館
高等学校

参加型の国際現代美術展 開幕

～岡山の街を彩る～

3年に一度の岡山芸術交流が、岡山市中心部で9月30日から11月27日まで開催されている。旧内山下小学校をメインとする10会場では、13カ国28組の参加作家による90点を超える作品が展示される。



神秘的でなぜか見入ってしまう美しさ

私塾、取材班は岡山県天神山文化プラザ旧内山下小学校の順番で取材を行った。最初の岡山県天神山文化プラザでは映像作品が多くでてきて、片山氏はこのプラザの前で写真をメインテーマ性に注視され、自分なりに理解しようとしていたが、その中で私達は気になる作品を見つけた。Another Sweet で赤い水の中の黒い花が浮かび、ピンクの花が出されて作品で上から吊るされており、表と裏があり、私達はこの作品に惹く、惹きつけられた。なぜか、その「手足」が、手足のようであるかがわかなかったからだ。マネキンであるかのようにマネキンが腕されているようでであることはわかる。しかし、肝心の「どの指なのか」がわからない。私の方指も、この作品のような曲がり方はしないからだ。内山下小学校では、また片山氏の作品が展示されている。

「わからないからこそ楽しめる」

「in the water」「possession」 片山 真理 氏

オレンジ色のライトと下に敷かれた小さな貝殻が、不思議な空気を感じさせる

姿勢だった。小学校に、ひとりぼっちの片山氏の作品がもつ感覚がとても良かったなぁ。現代美術というものはなかなか触れる機会がないうえに、片山氏にしか撮ることのできない写真がたくさん展示されていて、絵画を旁目に、とつまさくいくようなイメージがあった。何を知らもわからない。何を知らなかったのかもわからない。だが、何いまま作品を鑑賞するだけでも、現代美術にもっと興味があるなぁと思っていた。

くるのは、まるでひとつの問題提起のようなものだった。現代美術というものは、「possession」で、今回の岡山芸術交流2022の作品のこつである。

一体どんな授業をしているのだろうと思わせる教室

旧内山下小学校の二つの教室に四方すべての緑染めアートすべての黒板を使い、取まってと展開される。それはルバルバラ・サンチェス・カネル氏の「悪臭の詩」、今回の岡山芸術交流2022の作品の一つである。

参加者の手で作り上げる作品

「悪臭の詩」 バルバラ・サンチェス・カネル 氏

チョークを手に取り、夢中になって描く

この部屋の壁面、黒板、下の部屋は、来館者が教室にものの作品をとにたって完成する参加型の作品ちの部屋は私達

岡山芸術交流新聞

DO WE DREAM UNDER THE SAME SKY

総社市立総社中学校 美術部

総社中美術部 推しART BEST 3

BEST 1「アミューズメント・ロマーナ」

アーティスト・曽根 裕 氏

最初に見たときに、とても大きくて驚いた。岡時に、こんな作品をどうやって作ったのだろうと思った。実際に体験してみて、スピードが思ったよりも出て、少し怖かった。だけど、楽しくてもっと乗ってみたいという気持ちもあった。担当のひとは「曽根様さんがなぜこの作品を作ったのかは分からない。そして、この作品を作った意味を体験した人には考えてほしい」とおっしゃっていた。そこで、私は意味を考えた。そして、出た答えは、「乗れば作品を見て楽しんでもらうだけではなく、体験でも楽しんでもらうためだ」と思った。だから、一度乗っただけではなく、何度も何度も乗れるように作ったのだと理解した。

BEST 2「悪臭の詩」

アーティスト・バルバラ・サンチェス・カネ 氏

最初に部屋へ入ったときに、「何で全て緑なの？」と不思議に思った。また、骨がかっこう、うす気味悪いような独特の雰囲気もあった。椅子に座っている作品の生徒は、かっこよくて面白いなと感じた。お化けみたいという意外な作品だったからだ。前にいる先生が、骨がたくさんあって、キラキラしているところが印象的だった。実際にチョークで描いてみて、楽しくてずっと描いていたいと思った。自分で描いたものが、作品の一部になるのが、嬉しくて作者になった感じがした。子供でも、作品の一部が作れるところは一つの魅力だ。

作品を見に来た人達が描いていくと、にぎやかな雰囲気になる気がする。

BEST 3「雪豹（鷲ノ山凝灰岩）」

アーティスト・曽根 裕 氏

しなやかさが伝わってきたので、作者は石で作品を作るのには慣れているのだなと思った。でも、キャプションの文を読んでみると、石で作品を作るのは初めてと書かれていたのでびっくりした。それに、顔や腕、足や背骨まで細かくていねいに造られていてすごいと思った。目の部分を、出さずにへこませているところに、ヒョウの凶暴さやかっこよさが伝わってきた。背骨の部分が浮き出ているので、筋肉がたくさんついていて強そうなところに目を奪われた。作者は、このヒョウは強くてかっこいいと、感じさせたかったのだと分かった。ヒョウをあえて日の付にあいているのは、ヒョウが軽ってで疲れたからこで休んでいることを伝えたかったのではないかと思った。

（記者：大月、中村、村田）

作家が語る「DO WE DREAM UNDER THE SAME SKY」

「作品は、みんなでシェア」

ベルギーから来日 ゲルト・ロビンスさん、会場でインタビュー

9月30日に開山芸術交流2022が始まった。総社中学校美術部は、岡山芸術交流2022スペクタクルプロジェクトに参加した岡山小学校で、取材を敢行。参加者・当日作品を出品した地元のお年寄りなどにインタビューし、ご自身の作品についてのお話を伺ってきました。

今年に、岡山中小学校で、私たちが参加するプロジェクトが始まった。自分づくりとは、国の方から、「なぜ、このような作品（リ・セット・モバイル（スカイ））は、岡山芸術交流2022のタイトルのコンセプトに合っているのか」と、問いかけられたように感じた。それに対して、ロビンスさんは「DO WE DREAM UNDER THE SAME SKY（夢は同じ空の下）」だからだ、と答えた。

使う人や場所、時代、環境によって鷹賞の意味が違ってくる。だから、「太陽が私に気づいてくれるかどうか」だろうと、開催日とは全く長い間、ずっと待っていてやっと見つけ出された。「太陽が私に気づいてくれた」、と感じた感覚が、私の小さな屋根に鳥が止まってくれたように、とても嬉しかった。

なぜこの作品が人気なのか？この作品が人気なのは、見た目がインスタ映えするからだと私は感じた。

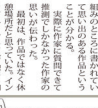
今回、岡山芸術交流2022ジャーナルプロジェクトに参加して、自分が制作を作れるかどうか、また、難易は体験できない。

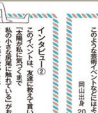
今回、岡山芸術交流2022ジャーナルプロジェクトに参加して、自分が制作を作れるかどうか、また、難易は体験できない。

今回、岡山芸術交流2022ジャーナルプロジェクトに参加して、自分が制作を作れるかどうか、また、難易は体験できない。

岡山芸術交流2022ジャーナルプロジェクトに参加して作品の作者にインタビューができました。

今回の「岡山芸術交流2022のマンガ」インタビュー。





岡山芸術交流新聞

歴史・空間・アート

DO WE DREAM UNDER THE SAME SKY

2022.9.30 FRI ~ 11.27 SUN

岡山県立大学
デザイン学部・岡北研究室

デザイン工学科 4年
山川 千尋

歴史的建物と現代アートはのるとして聞きなることができるのか。岡山芸術交流展では、市内中心部のまさぐる歴史的な建物の中やせた廃墟を会場とし、歴史的な建物の歴史を問いながら、美術館の展示とは異なる試みとして、作品の見方や考え方、感じ方に大きな違いが存在する。

アブラハム・クルズヴィエイガス《紙の道》@岡山神社

紙の道は神の道？風に揺れ建物をやさしく飾る

岡山神社は860年創建の歴史ある神社であり、現在の社殿は室町時代に建てられたものである。「紙の道」はそのクリーム色の美しい社殿に、ピンクと緑の細長い紙を吊り下げたアート。歴史ある神社の建物が、現代の風に吹かれ、神社建築の複雑な部材や装飾に絡みつき、そこに新たなストーリーが生まれる。紙の道は、まるで人間の道のように見えてくる。

神社建物の空間を通り、神聖な場所とされる、気軽に触れてはならないような、そこに新たな空間が生まれる。

池田亮司《data.flux [LED version]》

岡山城を背景にした圧倒的な映像と音響の体験

この作品は、駅大学アーカイブ、ビルの壁面に圧倒的な迫力を、そこに新たな発見を、そこに新たな視点を、そこに新たな感覚を、そこに新たな思考を、そこに新たな世界を、そこに新たな可能性を、そこに新たな未来を、そこに新たな過去を、そこに新たな現在を、そこに新たな自分を、そこに新たな他者を、そこに新たな社会を、そこに新たな歴史を、そこに新たな文化を、そこに新たな自然を、そこに新たな宇宙を、そこに新たな神を、そこに新たな悪魔を、そこに新たな天使を、そこに新たな人間を、そこに新たな動物を、そこに新たな植物を、そこに新たな鉱物を、そこに新たな物質を、そこに新たな原子を、そこに新たな分子を、そこに新たな細胞を、そこに新たな遺伝子を、そこに新たな脳を、そこに新たな心を、そこに新たな魂を、そこに新たな愛を、そこに新たな憎しみを、そこに新たな喜びを、そこに新たな悲しみを、そこに新たな怒りを、そこに新たな恐怖を、そこに新たな希望を、そこに新たな絶望を、そこに新たな光を、そこに新たな闇を、そこに新たな生を、そこに新たな死を、そこに新たな時を、そこに新たな永遠を、そこに新たな無を、そこに新たな有

岡山芸術交流新聞

DO WE DREAM UNDER THE SAME SKY

屋久島おおぞら高等学校

アートは何を訴えるのか

～芸術に溢れる二ヶ月間～

9月30日、私達高校生は3年に一度の国際現代美術展・岡山芸術交流2022*の取材をしてきた。

当日朝から多くの人が訪れ、開幕セレモニーが開かれた。そして私達は、各会場に展示されている作品を鑑賞しながら、来場者にインタビューもおこなった。今回その中で私達が各々印象深かった作品をピックアップして、記事にした。

アートの存在意義について語り合う俳子・岡山県立美術館ホール

アーティスト語る

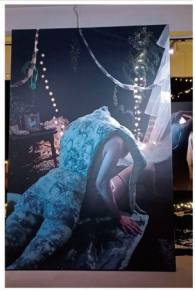
開幕初日の午後、岡山県立美術館ホールにてリクリット・ティラヴァニャさんをはじめとする参加アーティスト8名による「アーティストトーク」が開催された。観客は見高同時通訳を聞くことができ、同時でUSBでも配信された。

話は自身の作品に込めた思いから昨今の国際情勢に及んだ。「自鳥、海へゆく」と3本の映像作品を展示している高橋富清さんはアートの存在意義について「ある不安定な時代に、人びとが人生を生きていくなかで、体育館の中掃り台の埃が舞うように、必要な人にとって手すりやスロープにならなければいけない。それで救われる人がいっぱいいる。それこそが、アートの存在意義だと思っている。」と、「怒りの仕事」と思っている。しかし、岡山芸術交流を、アンビバレントな、アイデアを出せることができる。

okayama art summit 2022
岡山芸術交流2022

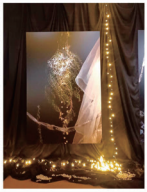
パブリックプログラム ジャーナルプロジェクト

暗闇の先、



片山真理さんは、日本の現代芸術家で、義足のアーティストとして知られている。自身の身体的要素をモチーフにした作品を数多く制作しており、義足ペンシルを使ったり、手足型パンストを装飾していたり、シャッターを押すことは身体性と関連するとし、自分シンデレラを押すことにこだわっているなどと、自分シンデレラを押すことは、「Photo Kasuri」という作品を通じている。

部屋全体が暗くなっており、照明に照らされた作品が浮び上がっている。



アーティスト：片山真理　場所：旧内山下小学校　作品名：Photo Kasuri

片山真理さんの世界観を創作の源としている。その作品は、言葉や語から離れない、片山真理さんからヒントを受け、「ダグ」というタイトルを付けたものである。

私は、片山真理さんの紹介文に書いてあった「作家活動をして生きることと経済活動をして生きることは、同じ意味なのである。」という言葉を通じて、この社会は、私達高校生にとって、女であり、母であり、いろんな「ダグ」がついていることを、改めて思った。

片山真理さんは、第二者がつける「ダグ」であるが、自分自身でも「ダグ」をつけ、また相手にも無意識のうちに「ダグ」をつけているのだと考えさせられた。

今回、旧内山小学校以外にも展示されている場所があり、岡山夫婦展の三か所で作品を見ることができる。岡山芸術交流2022公式ホームページでは、片山真理さんのインタビューの映像が公開されている。片山真理さんが作品作りで大切にしてきたことや、岡山市の印象について、見て、聞いて、感じたことなどについても語っている。是非、見てほしい。（山田美優）

私が難民か市民かわかる

岡山県立岡山支援学校ブラザーズ・サッカー

岡山県立岡山支援学校ブラザーズ・サッカーは、岡山県内の特別支援学校の生徒で構成されている。ブラザーズは、ヨーロッパ、アフリカ、アジアなどの国々の難民チームを想定して、ゲームを行っている。

小学校の体育館に、廃材でつくられたゴールが設置されている。ボールを蹴ったり、ゴールを決めたりすると、ゴールの周辺に設置されている、ブラザーズの難民チームの国旗が、ゴールの数だけ、1枚ずつ、ゴールの上から下へ落ちてくる。ゴールの数が多ければ、国旗の数が多くなる。ゴールの数が少ないと、国旗の数が少なくなる。ゴールの数は、ブラザーズの難民チームの、生活の豊かさを表している。

ゴールの数は、ブラザーズの難民チームの、生活の豊かさを表している。ゴールの数が多ければ、ブラザーズの難民チームの、生活は豊かであるが、ゴールの数が少ないと、ブラザーズの難民チームの、生活は、貧しいこと

岡山芸術交流新聞

DO WE DREAM UNDER THE SAME SKY

2022.9.30 FRI - 11.27 SUN

ノートルダム清心女子大学

芸術との出会い、ここにあります

今回紹介する岡山芸術交流は、2016年から3年に1回岡山市で開催されている。今回は9月30日（金）から11月27日（日）まで約2カ月間開催される。

今回の岡山芸術交流2022のタイトルは「DO WE dream under the same sky」で、アーティスティック・ディレクターに前回、前々回に引き続き、ラクリット・イアヴァーン氏が就任。今回は本町のスティトメン、岡山城跡、岡山天神山公園、後楽園、岡山神社、石山公園、岡山城跡、岡山天満屋の計10ヶ所である。

今回の岡山芸術交流2022の展開場会場は、旧内山下小学校、岡山県美術館、シネマクレール丸の内、岡山市立オリエント美術館である。

西洋的視線の対極にある物語的な世界観を意味する言葉。「夢」は、見た、聞き方、ありり方、そして、目に見えない、物語、野心、そして自分の夢を追求する意味。

ある空で見る夢。つまり、物語や、生活、そして考え方、ある空で見る夢の対極にある物語的な世界観を意味する言葉。

今回の展示は、「夢」をテーマとしたアートを通じて、人間の生活、そして自分の夢を追求する意味。

©Okayama Art Summit2022
芝生作品の上に描かれた、小学生たちによる人文字

Under the Sky of Okayama

What is your identity? The Okayama Art Summit brings together artworks by artists from all over the world. A wide variety of identities are gathered here. If you are from a country other than Japan, please try to find artworks created by artists from the same country or a nearby region. I am sure you will enjoy the artworks from different perspectives more than we Japanese do. The places where the Art Summit takes place are also fascinating. At Korakuen Garden, various events are held to allow visitors to experience Japanese culture from season to season. At the Okayama Orient Museum, visitors will be able to feel the history of the Orient and the international exchange that has been taking place since ancient times. We would like to use this Art Summit as an opportunity to make Okayama the place where everyone can fulfill their dream, regardless of nationality, age, gender, or language under the same sky.

okayama art summit 2022
岡山芸術交流2022

パブリックプログラム ジャーナルプロジェクト

アートは自分を映し出す鏡

一羽のボートから広がる夢

会場第1展示されている作品の中から、2つの作品に焦点を当てた。感想としては「軽やかな音楽と、スワンボートがゆったりと動いている井目白景色」に思いを馳せるようにお話ししてくださった。そしてそれを未来へ繋げていくような意見を述べた。

だろうかという発想の作品。感想としては「軽やかな音楽と、スワンボートがゆったりと動いている井目白景色」に思いを馳せるように話してくださった。そしてそれを未来へ繋げていくような意見を述べた。

2つの作品は、バンバラ・サイモンのスカルプチャー「夢の時代」である。この作品もー2目と同様、旧内山下小学校の2階に展示されている。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

音楽と共に、海へ、海へと進む島民氏のスワンボート

会場第1展示されている作品の中から、2つの作品に焦点を当てた。感想としては「軽やかな音楽と、スワンボートがゆったりと動いている井目白景色」に思いを馳せるように話してくださった。そしてそれを未来へ繋げていくような意見を述べた。

異世界空間?!

界を楽しと経験なさった。感想としては「軽やかな音楽と、スワンボートがゆったりと動いている井目白景色」に思いを馳せるように話してくださった。そしてそれを未来へ繋げていくような意見を述べた。

この作品は、バンバラ・サイモンのスカルプチャー「夢の時代」である。この作品は、旧内山下小学校の2階に展示されている。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

この部屋の前は、「なぜ島民氏はスワンボートで海に出たのか」という疑問を抱いた感想だ。

「なんか好きかも」の理由は「夢」のなか?!

これらの作品に共通していることは、作品がそれぞれ、「夢」をテーマとしていることだと思った。

「夢」とは、作品を見て自分が「夢」を見ているような感覚だった。今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

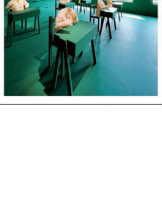
今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

今回は、「夢」を見ているような感覚だった。

岡山市内各所で見受けられる展覧会のフラッグ



授業風景に溶け込む生徒らしきオブジェたち

ノートルダム清心女子大学

表町商店街の2か所に大判サイズの新聞を掲示、多くの人に読まれた。

（左）参加校校内でも、新聞が掲示・配布された。
（右）記事の一部は実際に地元の新聞紙面にも掲載された。

2022年11月17日付
山陽新聞　文化（15頁）

ジャーナルプロジェクト
参加者・教員の感想

参加した学生の感想

● いろんな観点から見ることで完成する芸術もあることや、新聞の書き方を学びました。どうやったら相手に正確に伝わるか、考えるのは意外と難しかったです。街を歩き回るのはとても楽しかったです。いつも住んでいる街だけど自分の知らない面が見えて新鮮でした。

● 新聞作りの大変さを学びました。お客さんとしてではなく、ジャーナルプロジェクトに参加したことで違う視点で作品を鑑賞することができて、おもしろかったです。

● 取材をするにあたって情報収集をして予備知識を付けておくことは大切なことだと感じました。どんな切り取り方でこの芸術交流をいろんな人に対して紹介するかを決めるのは難しかったです。完成して商店街に掲載された新聞を見た時はいい感じになってるじゃんと思った一方、写真は違う候補のが良かったなど改善点にも気づきました。

● チームで話し合いレイアウトを決めたり、自分の考えた文章を皆で直したりしていろいろな考え方や見方があるんだなと思いました。今回参加して岡山でこんなイベントが開かれていることを知ったり、いろいろな人たちと関わって楽しかったです。作品を見に来た方々にインタビューすることに抵抗があってあまりできなかったなと思いました。

● この経験を通して、現代の芸術が人のアイデンティティを考えさせること、芸術家が自己表現を人に考えさせることを真剣に考えていたことを学べたと思います。私が考えている以上に、物を作る人、特に感情を想起させるモノづくりをしている人は、表現方法や、人がどう感じるかを考えていることが伝わってきました。そのことで、これからの私のモノづくりもより一層丁寧にどう感じられるかを考えていきたいと感じました。

● アートとはさまざまな角度から作品を解釈することができ、正解はないということ。だからこそ、自分自身で独自の解釈をして楽しむこと、自分の感覚を大切にすることが重要なのだと学びました。実際に作品を見ていると、さまざまな疑問が生まれていきました。この作品は何を伝えたいのだろうかと妄想しながら、作品に濃縮されたメッセージを考えていました。現代アートの楽しみ方を知れたような気がするので、また現代美術館に足を運びたいと思います!

● アートは個人的な観点から感じ取ることで、自分の中での正解のような、腑に落ちる捉え方を見つけることができるが、それぞれの人間が感性を文字に起こすという作業を経て、その観点を何にするかによって捉え方や感じ方は全く違ってくるということが、非常にこのプロジェクトのおもしろい部分であった。アートは言葉としては表し難いが、その作業は私にとっての新たなアートの楽しみ方として確立させるような体験であり、同時に、それがアートの堪能方法の一つであることが大きな学びとなった。ジャーナルプロジェクトに参加していなければ、私のアートの楽しみ方が乏しいままであったと考えると、自身の感性を成長させられた素晴らしい機会であったと感じる。感性は年齢や経験によってきっと変わってくると思うので、幾つになってもアートにふれ続けていきたいと思った。

● これまで現代アートというものはどこか近寄り難く、「わかる人にしかわからない」ものだと勝手に考えていたが、今回現代アートを間近で見てその魅力を伝える立場に立ったことで、現代アートは作る方も見る方も自由でよく、見る人と同じ数だけ感じ方があり、現代アートを見た時の自分や友達ひとりひとりの気持ちを尊重することが大切だとわかった。その感じ方の1つの例として自分の感じたことを素直に記事にできた。また、今回見た現代アートは岡山市内の魅力ある建築物と絡ませるようにしてあり、建築を学ぶ者として空間と芸術の魅せ方という点でも非常に学ぶことがあった。純粋に現代アートを楽しむことができたと同時に、単にひとつの美術館の中でアートを鑑賞するのとは異なり、アートを求めて街を歩き回ったことで4年間住んでも知らなかった岡山の魅力をたくさん発見できた。記事作成や取材のノウハウを学べたことはもちろんだが、わたしにとっては岡山で過ごす最後の夏に、現代アートというものをきっかけにして岡山という街を知る大変いい機会になった。

● 美術館や博物館を訪れることは何度かあったが、現代アートにふれるのは今回が初めてだった。それぞれの作品がどのような意味を伝えようとしているのかじっくりと考えることのおもしろさやそのときの自分の思考と向き合う楽しさが味わえた。自分が納得するまで深く考えることの重要性も理解でき、今後も自分の人生を豊かにしてくれる体験ができたことがとてもうれしかった。

● 言葉ではないアートを言語化する難しさに直面したが、ここまでアートに真摯に

教員の感想

向き合う経験は初めてだった。一緒に活動したメンバー間で、作品に対する捉え方が全く違ったからこそ、新聞にする文章や作品への捉え方を語りだすと止まらず、時間を忘れるほどだった。時間をかけて深い考察をし、言葉選びにまでこだわる新聞を楽しんで作成できたのでよかった。

● 今回は自分がみんなを巻き込む形で参加させていただきました。個人的にアートを見ることが好きという理由だけの参加でした。正直ここまで話が大きくなるとは思っておらず、自分でもまだ自分が何をしたのか理解できていない状況です。しかし、自分たちで作った新聞を見返してみて初めて実感することができ、何度も何度もいい経験をさせていただけたと感じております。この度は本当にお世話になりました。ありがとうございます。

● 自分の固定概念が崩れた。新しい自分を見つけていきたい。

● 見出しが大事ということを学んだ。

● 普段体験できないインタビューや新聞づくりを学ぶことができた。

● 作品の魅力にふれることができて勉強になった。

● みんなで考えてまとめることができてよかった。また機会があれば作れるようにしたい。

● 今回芸術交流実行委員会の方を含め、山陽新聞社、パブリックプログラムディレクターの木ノ下先生、アーティストの方々など多くの大人の方々に関わる機会があり、生徒自身も大きなプロジェクトに携われたことを誇りに感じていたように思います。内覧会や開会式、アーティストトークなど通常では参加できないタイミングに、プレスの札をかけて参加できたことは特別感もあり、生徒も大変喜んでいました。
学びの場所は教室だけではないことは教育現場で実感してきましたが、ここ数年はコロナの蔓延で思うようにいかないことも多く、今回このようなチャンスをいただけたことはとてもありがたかったです。
新聞づくりに関しては、初めての経験でしたが、「新聞をつくる」という一つの取り組みから多くの学びがあったように思います。「文章を書いて相手に伝える」「自分たちの視点」「新聞としての表現」「合意形成する」「インタビュー等でのコミュニケーション」など挙げればきりがありません。また「芸術」や「岡山」という街に以前より興味と愛着が持てるようになったようにも感じます。公共の場所に展示していただいたことは自信になり、もっといいものができたのではないかという振り返りにもなりました。
生徒の感想にもありましたが、「岡山芸術交流2022」というイベントに、「発信する」立場で参加できたことは、大変貴重な経験となりました。修正に毎日遅くまでお付き合いいただけたこと、生徒ともども感謝しております。ありがとうございました。

● 芸術交流に参加する前には、恥ずかしながら、池田亮司さんと片山真理さんくらいしか芸術家の名前を知りませんでしたが、ジャーナルプロジェクトに参加し、さまざまな作家の作品を調べていくうちに、新しい発見がさまざま出てきました。わたしにとって最も幸運だったのはアピチャッポン・ウィーラセタクンという映画監督とその作品を知ることができたことです。彼が建築の学生だったということにも興味を惹かれましたし、映画に織り込まれる神話や伝承とその映像化の表現にも驚かされました。
もう一つは、作品の体験を通して、学生たちに芸術の価値、あるいは批評について考える機会を作り出せたことです。彼らの普段の会話では何かを評価する時には、あっさりと「おもしろい」「感激した」「感動した」などたった一言で済ませてしまうことが多いのが気になっていました。作品の価値を誰かに伝えるために、言葉を選び文章化することの大切さを、彼らに少しでも教えることができたのではないかと思います。これらの二つの経験がいま大学で実施している映画批評の授業にも生きています。

● 今回は貴重な体験をさせていただき、生徒たちはとても楽しく意欲的に取り組むことができました。美術部として、学校外で学ぶ活動の機会がなかなかないので、大変ありがたかったです。作品制作に対してのモチベーションも上がったように思われます。本当にありがとうございました。

担当者の声

子どもナビと楽しむアートツアー ジャーナルプロジェクト

岡山芸術交流実行委員会事務局員

子どもナビと楽しむアートツアーについて

事前ワークショップや予行練習の時には緊張で声が小さく自信がなかった子どもも、本番では大きな声で大人にナビゲートしており、子どもたちの成長した姿に感動しました。次回もまたナビゲーターをしたいという感想をもった子どもも多く、アートを通じて子どもたちの能力や個性、積極性を引き出すことのできるこのツアーの意義をあらためて感じました。

ジャーナルプロジェクトについて

ジャーナルプロジェクトは今回初の試みで、私自身もどのような新聞ができるのか、想像できませんでした。学生たちはよい新聞を作りたいという前向きな姿勢で新聞制作に取り組み、自分たちが学んでいる専門分野で作品を深掘りしたり独自の視点から作品を見つめたりするなど内容を工夫して、どのグループも個性が溢れた素晴らしい紙面を完成させることができました。

商店街に大きく掲出された新聞は、多くの方に読んでいただき、岡山芸術交流に来たことがある方にもない方にも大変好評でした。また、新聞記事の一部が実際に地元の新聞に掲載され、より広がりを見せることができました。学生や先生からも、プロジェクトに参加してよかったと感謝の声をいただくことができました。

MATERIAL

資料・教材

岡山芸術交流の紹介やアーティストへのインタビュー動画、子ども向けのワークシート、岡山市内や周辺エリアの見所や同時期に開催されるイベントを紹介するマップを制作。さまざまな媒体で岡山芸術交流や岡山のまちの楽しみ方を発信し、鑑賞をサポートした。

紙媒体/ウェブサイト

岡山芸術交流 オルタナティブマップ・ウェブサイト

https://oasamap.jp/

「岡山芸術交流オルタナティブマップ」は、市内を回遊しながら岡山の魅力を"発見・探求・伝播"してもらうために、まちに点在する多種多様な見どころを独自の視点で編纂。展覧会で美術作品を鑑賞するようにまちなみを捉え直して歩いてみれば、何気ない日常の風景や物事が、人々の営みや創意工夫の込められた"逸品"として、あるいはコンセプチュアルアートに通じる問いかけのようにも感じられる、というコンセプト。2022年は、2016年に好評を博した3つのエリアマップを冊子として復刻し、各会場で配布した。ウェブサイトには、「みんなで見つけるおかやま街角鑑賞」のコーナーがあり、インスタグラムで「#おかやま街角鑑賞」として誰でも投稿することができる。

協働

桑田奈美枝
Satellite/ギャラリスト

軸原ヨウスケ
COCHAE/デザイナー

内海慶一
著述業/ライター

紙媒体/ウェブサイト

OKAYAMA：OUR RECOMMENDATION

https://goo.gl/maps/ZFnrKNWDuiU8yMNc8

岡山のカルチャーシーンに着目し、岡山県を「備前・備中・美作」という3つのエリアにわけて、各エリアの特徴とともにさまざまなスポットや、イベントの名称と住所といった情報を掲載した媒体を発行。QRコードからはウェブサイト上でマップや詳細情報を参照することができる。「備前・備中・美作」の3つのエリアは、かつて大和国にも匹敵するほどの繁栄を誇った古代吉備国の一部であった。7世紀以降、吉備国が備前、備中、美作、備後に分割され、そのうちの「備前・備中・美作」が現在の岡山県となっている。

デザイン

加瀬部敏志

紙媒体

ワークシート「マイ アート ブック」

https://www.okayamaartsummit.jp/2022/public-program/171/

子どもたちの鑑賞をサポートし、事後のまとめにも使用できる小学生向けワークシート「マイ アート ブック」を作成。来場小学校、特別支援学校の全児童に配付した。また会期中、旧内山下小学校、岡山市立オリエント美術館、岡山県天神山文化プラザの受付に置き、休日に訪れた子どもたちに自由にとって使ってもらえるようにした。ウェブサイトからもダウンロード可能。

デザイン

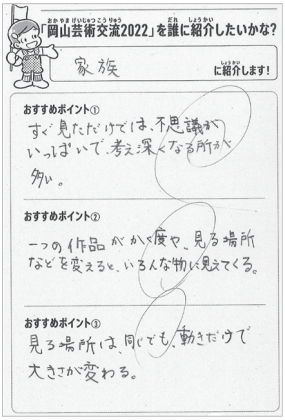
加瀬部敏志

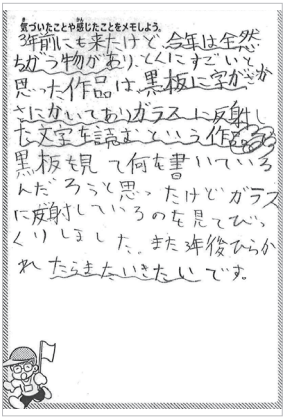
イラストレーション

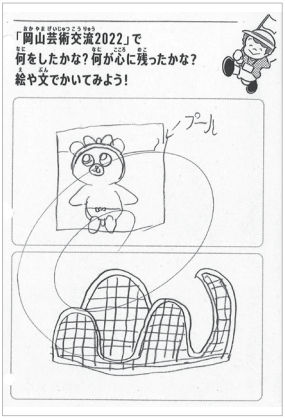
ホリグチイツ

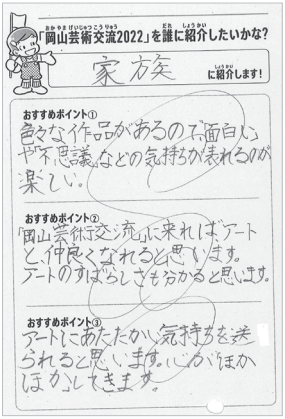
「マイ アート ブック」の活用例

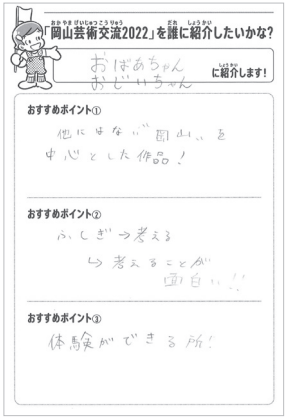
学校来場の際に多くの子どもたちがこの「マイ アート ブック」を持参していた。鑑賞中に気づいたことをメモしたり、鑑賞後の振り返りの時間に感じたことを書き込んだりと、さまざまな形で子どもたちの鑑賞をサポートするツールとして活用された。











内容 「岡山芸術交流2022」を誰に紹介したいかな? / 「岡山芸術交流2022」で何をしたかな? 何が心に残ったかな?絵や文でかいてみよう! / お気に入りの作品を見つけよう / 気になる作品を見つけよう / この作品 を家に持って帰りたいな / 気づいたことや感じたことをメモしよう。

動画

アーティストインタビュー

参加アーティストたちに、作品制作への思いや岡山の印象、岡山芸術交流で楽しみにしていることなどをインタビューし、動画にして紹介した。

担当者の感想

今までテキストや写真でしか知らなかったアーティストと直接話すことにより、作品制作のことだけでなく、人柄なども垣間見ることができ、非常に貴重な経験になりました。インタビュー内容を紹介動画をはじめさまざまな媒体に活用することで、多くの方にアーティストのことを知っていただくことができたと思います。

映像制作

特定非営利活動法人
ENNOVA OKAYAMA

出演

リクリット・ティラヴァーニャ
マイリン・レイ
ダニエル・ボイド
片山真理
笹本晃
島袋道浩
アピチャッポン・
ウィーラセタクン

https://www.okayamaartsummit.jp/2022/public-program/81/

リクリット・ティラヴァーニャ

Rirkrit Tiravanija

Q1 作品制作で大切にしてきたことは何でしょうか？

私の作品の多くはほかの人とともに作り上げるものですので、たくさんの人と一緒にいることを常に楽しんできました。私にとって、その場所で暮らす人とともに過ごすのは大切なことであり、総じてそれが私の作品そのものなのです。人と一緒にいることが好きなのですよ。

Q2 岡山市の印象はいかがでしょうか？

岡山にはこれまでにも何度か来たことがあります。日本の他の地域にも何度か行ったことがありますが、岡山はとても親しみやすくて活き活きとしたところですね。今は時差ボケのために朝とても早く目が覚めるので、時間をかけて周辺を散歩しています。ホテルから岡山城へ行ったり、今日は西川沿いを歩いて店を見て回ったりしました。以前行った岡ビルが健在だったので、古い市場にも行きました。中に入って行くと、以前のように魚などが売られていました。こういう隠れ家的な場所が好きなのです。東京や、ほかの大都市とは対極にあるような感じです。こういう人間的な感じが好きです。ここでの生活を深く見て感じ取ることができますから。ここは居心地が良いですね。これまで何度か行ったことがある場所のように、地元の人のことがわかってきたり、知らなかったレストランや蕎麦屋やカフェを知っていったり、それらの場所とのつながりが生まれてきていると思います。久しぶりに戻ってきたときにそのカフェがまだあって、変わらずおばあさんが調理をしていると、やはりとても嬉しくなります。それが岡山のとても好きなところです。

Q3 どのような意図で本展覧会のテーマを決定しましたか？

タイトルの“Do we dream under the same sky”は、実は以前にも私の個展で使ったフレーズです。その瞬間、あるいは多くの瞬間に共鳴するもののように思います。ですが今、このウィズコロナの状況の中で、そしてもちろん最近はウクライナでの戦争といったことがある中で、この世界の一員としてどう共存するか、ともに時を過ごすかを改めて考える必要があると思います。

また、私たちはみんな良いことや良い人生を夢見ることで、より良いものへの希望を持っているのだと思います。ですから、私たちみんなが集まって、一緒に夢を見たり考えたりすることが子どもたちのために、私たちの未来のためにより良い場所を作ることに繋がるのではないでしょうか。

Q4 参加されるアーティストたちにはどのようなことを期待していますか？

今回、私は数名の友人たちと、今まで関わりのなかったアーティストの方々を招待させていただきました。私の願い、それは私たちが一緒になって未来のことを考えることです。私たちは何を目指していくべきなのか、どのようにこれからを生きていけばよいのかについて考えることです。

そしてこの岡山芸術交流を楽しんでもらうことはもちろん、岡山への感謝の気持ちも忘れないでいてほしいと思います。岡山の人々と出会えるこの機会に、ぜひ人々と一緒に取り組み、交流してもらいたいのです。

距離をとらなければいけない状況の今だからこそ、お互いのふれあいが大切だと思うのです。マスクをつけなくてはならない状況でも、私たちは関わりを持つことができます。私たちが置かれている状況がどんなに厳しい状況だとしても、私たちは笑い合い、そして楽しむことができるのです。

Q5 地元の方や子どもたちに向けたメッセージをお願いします。

皆さん、ぜひ会場にお越しください。私たちアーティストと共にこのイベントを盛り上げ、そして一緒に夢を見ましょう。楽しみましょう。これからの私たちの未来について考えるきっかけになることを願っています。

マイリン・レイ

My-Linh Le

Q1 私にとって最も大切なことは、ここ岡山の人々、日本の人々、そして岡山芸術交流に参加されるアーティストの方々について知ることです。また、私がここにいる間に皆さんとできるだけ深い関係を築くことです。

Q2 とてもかわいい街ですよね。思っていたよりもずっと大きいです。そしてとても興味深いことを知りました。それは私の出身地であるカリフォルニア州のサンノゼ市と岡山市が姉妹都市であるということです。すでに私の故郷と私がこれから働く場所にはつながりがあったのですね。

Q3「夢」とは、物語を伝えることができる私たち自身の潜在意識であり、そしてその物語こそが、私の作品においてとても重要であると考えています。物語を伝えること、それはダンサーである私の使命の中でも最も重要な部分の一つです。ですからこのテーマは、果たして私たちは、みんな同じような物語を持っているのかということを問いかけていて、とても気に入っています。本当にわくわくします。

Q4 アーティストたちが集まり、作品を展示することで街が変化するのを見るのがとても楽しみです。皆さんに私たちの表現するものと、他の方の作品を、一緒に見てもらえるのが楽しみです。

Q5 こんにちは!ぜひ皆さん芸術交流にお越しください。楽しんでもらえることを願っています。そして皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

ダニエル・ボイド

Daniel Boyd

Q1 アート作品は、体験を共有するものだと思います。いかに詩的なイメージで簡潔に表現し、アート作品と関わりあうことができるかがアートの務めだと考えています。

Q2 とても美しい街だと思います。私の初めての日本、東京での体験とは違います。都会のような混沌とした場所より、よいですね。また、文化的な街ならではのスピード感もいいですね。

Q3「夢」という言葉に注目してもらうこと、意味を考えてもらうことは大切だと思います。タイトルに込められた詩的な意図は、さまざまなあり方で岡山芸術交流に関わるためにもとても大事な要素ではないでしょうか。

Q4 岡山の文化、岡山という地域性という文脈で、それぞれ異なる背景を持つアーティストたちがどのように集い、どのようなアート作品を制作し、どのように関わっていけるのかがとても楽しみです。

Q5 今回のタイトルをとても気に入っています。そして皆さんには、エキサイティングな作品をお届けできればと思います。ぜひ、岡山の皆様にはアート作品を通じた体験と興奮を楽しんでいただけるとうれしいです。

片山 真理

Mari Katayama

Q1 一番大切なのは、その時に自分が何を感じたか。私は今生きていて、ここに立っていて、どんな場所でも自分がどう受け入れていて、どうインプットしているのか。アウトプットしたいものをアウトプットしたいどおりにやる方法を、なるべくズレがないようにしていくのを、努力したり大事にしたりしていました。
あと作品は、私は基本的にオブジェを作って、写真に撮って、自分が入り込んで、セルフポートレートを撮って、そのあとにインスタレーションという形で会場に入れていくので、こうやって現場で視察をして、その場所に、特に自然光や風とか、そういう環境と呼応しながら、何が一番ベストか考えるのを大切にしています。

Q2 実をいうと6年前に別のプロジェクトで個展をさせていただいたことがあったんです。久々に岡山に来られて、あらためて歩く先に個人のコレクションの作品があったり、素晴らしい作品がちょっとしたお散歩コースで見れてしまう。お城があったり、建物もとても素敵だったりして本当に感動しましたね。あとご飯もおいしい。

Q3 最近、作品や仕事の規模が大きくなるにつれて、個人で手が届く範囲以上のことをやる場面が増えてきて。仲間がどんどん増えてきて、いろんな人と仕事をしていくんですけども、同じところに立って、同じ方向を向いているつもりでも、見える景色や感じるものはそれぞれ違う。だから、同じ空を見てても、相手が何を感じているのかなって、歩み寄っていって考えないといけない。同じものを見ているんだから、きっと同じことを考えてるだろうと思ってしまうのは、すごく大変な問題で、やっぱりそこにその人それぞれの考えを持たないといけないんだろうなっていうのを、タイトルを見て感じました。

Q4 さっきもおいしいものが、って言ったんですけど、食べ歩きたいです。食べ歩きたいですし、実は私ソテツがすごく好きなのです。今も私の隣にありますが、巨大なソテツを見て、写真を撮ったり絵に描いたりしたいなと思っております。
というのも、岡山のソテツをイメージした作品の写真があったり、義足にも入ったりしていて、かなり私の中では大事な存在になっているので、岡山のソテツは。ソテツツアーをしたいな、と思っています。

Q5 作品というのは作家が作ったメッセージとかそういうものが込められていたり、いろんな読み解き方があるんですけど、なによりも大切にしてほしいのは、見ているあなたたち、見ている人の気持ちだと思うので、感じたものをそのまま自然に受け止めてもらえたらいいなと思っています。とにかく「have fun!」で。

笹本 晃
Aki Sasamoto

Q1 作品一つひとつに入口がたくさんあって、出口もたくさんあるようなものを作りたいと思っています。特に、魂がこもった物づくりを目指したいと思っていて、自分が魂を注入するよりも、どうやって物に魂が宿るかに興味があります。また派生して、物から作り手の事情や情報が間接的に伝わるかどうかにも注目しながら制作しています。

Q2 山あり谷あり、なんとも美しい、楽しい地形だなと思ったし、あとは歴史が古いのでお話がおもしろい。自分の作品や制作活動に対してもその裏にあるお話に興味があるので。たとえば桃太郎の伝説一つとっても時代時代に変遷していく、そういう経緯がおもしろいなと思いました。息子がお気に入りなのは歌の話。あと外せないのはフルーツですかね。おいしいですよね。

Q3 ディレクターのリクリット氏らしい、人間愛に満ちたテーマだと思いました。近い未来も含めて、みんなで解決していかなきゃいけない課題が多い時代に、もう一度彼の視点から出てくるような、その集いの必要性を感じる機会を設けるのは、まさしく今らしいなと感じました。

Q4 自分の作品に関しては、過去数年にわたって温めてきた作品を集合させて展示できる機会になりました。ビデオのテーマが世界情勢だったりするので、そのあたりを岡山の方々がどのように受け止めてくださるのか、ちょっと興味があります。

Q5 遠い国の作家の作品に感銘を受けたり、また逆に同じ町会の人とか隣の席の生徒のことを理解できなかったり、人間模様って本当に驚きの連続なので、どんなきっかけであれ、それが素敵なことであれ、困難であれ、いろんな出会いに刺激を受けて、アートも人生も楽しんでください！夢のように！

島袋 道浩
Shimabuku

Q1 作品っぽくしないというか、作品じゃなくてもいいやって思って自由に発想しようと思っています。結果的に、「なんだろこれ」、「変なの」っと思ってもそれでいいかなと。要するに見たことないものとか、今までないものを作りたい。結局自分でも分からないものでも、何か心に響くようなものになればいいなと思います。

Q2 今（私は）53歳ですけど、母親が岡山出身だったこともあって、50年ぐらい前のこの町の記憶があります。今もよい意味で変わらないところがあるのが貴重だなと。だからいつも帰ってくると、ちょっとタイムスリップしたような、不思議な感覚になりますね。

Q3 リクリットも言ってましたけど、みんなが同じ夢をみる必要はなくって、同じ星の上でみんながいろんな、それぞれ耳を向ける状態というのが、それが理想なんだろうなと思います。

Q4 今回は初めてアジア系の芸術監督で、アジア系の作家もたくさんいるので、今までの芸術交流とちょっと違いますね。僕の知らないアジアの作家もたくさん参加しているので、彼らの作品を観るのをすごく楽しみにしています。

Q5 現代アートは難しいと思っている人は、結構多いんじゃないかと思います。わからないっていう声をたくさん聞くんですけど、逆にアートってわかるもんでもないなと思うんですね。例えば、野球を初めて見たときに、なぜみんな一塁側に走るんだろう、って思うと思うんですね。なぜ三塁側に走ったらだめなんだろう。でもルールがわかってくれば、まずは一塁に走るべきなんだってわかってくるじゃないですか。今回芸術交流の開催は3回目で、この先4回目も5回目も開催されると思うんですけど、そうやって何度も繰り返し見続けることによってだんだん「ルール」みたいなものがわかってくるんだと思うんですね。そうするとおもしろさもわかってくると思います。だから一度見ただけで、野球のルールはよくわからないって言ってしまわずに、わからないことを楽しむ、わからないけど、早いボール投げてすごいなとか、そういう楽しみ方もあるんじゃないかなと思います。

アピチャッポン・ウィーラセタクン

Apichatpong Weerasethakul

Q1 私の場合、短期的な記憶しか持っていないので、映画を作ることは私にとって、ある種の記憶を保存する方法なのです。それと同時に、過去にとらわれず今を生きたいとも思っています。映画を作ることは、このような存在を肯定できるかを問うことにも繋がるのです。映画を作る、作らない、どうして映画が作りたいのかということも、こういった押し引きが理由になっているのです。そしてこのようなエネルギーが私を前進させています。

Q2 どうでしょう。私は小さな町で育ったのですが、この街は故郷を思わせるような何かがありますね。この街は東京と比べると、小さなコーヒーショップや専門料理店があるような場所です。本当に私の個人的な感情だと思いますが、とても親近感が湧きますね。

Q3 このタイトルはとても熟考する価値のある問いかけだと思います。ニュースや情報、生き方において、人々がますます同じものを吸収するようになっている中で、夢もみんな同じ夢を見ているのだろうと考えることがあります。
でもそれと同時に、私はこの問いかけに、「いや違う。私はあなたのような夢は見ない」と抵抗もするのです。なぜなら私は、人と同じような夢は見るべきではないと思うからです。人は個性やそれぞれ自分の色を持っているからこそ、それが世界をカラフルにするのです。
しかし、例えばコロナ禍のような特殊な状況下においては、自分たちのスペースに閉じ込められたことにより、人々が繋がりたいという同じ欲求を共有する瞬間があるのです。コンピューターを通してではなく、実際に体に触れ、本当のコミュニケーションを通じて人と繋がりたいという欲求です。
だからこそ、このタイトルは本当に的を射た問いかけだと思います。なぜなら、非常に異なった角度から、さまざまな形でイエスかノーかを答えることができるからです。つまり、とてもオープンなタイトルだということですね。

Q4 ちょうどお昼にとてもおいしいカレーを食べたところです。クワイエットビレッジというカレー屋さんで、最高においしいのです。そして、ここで仕事をすることも楽しみにしていました。
この場所（旧内山下小学校）に来てみて、すぐに気に入りましたし、この教室を見て心が躍りました。黒板を見ていると、なぜか若い頃に戻ったような気分になるのです。これこそが、私たちが話している同じ夢だと思います。そして私は記憶と対峙するこの感覚を、静寂と共に作品化したのです。

Q5 まず、今回岡山に来させていただき、この美しい街を満喫させていただいたことを感謝しています。さまざまなアイデアにふれ、皆さんが素敵な時間を過ごされることを願っています。正しいとか間違っているとかいうことではなく、異なる記憶、色、文化が、一つになるのです。それはまるで大きな祝砲のようなものです。是非お楽しみください。

動画

岡山芸術交流紹介動画「岡山芸術交流ってなに？アートってなに？」

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、学校への出前授業が制限されるなか、アウトリーチの方法として、黙食となっている給食時間や授業時間に視聴してもらえるような、短時間の動画を制作した。

小学生に親しみやすい岡山市教育委員会広報専門官「こらぼん♪」というキャラクターと共に、岡山芸術交流や現代アートを勉強するという内容で、全5本のシリーズとなっている。

担当者の感想

小学生に親しみやすいキャラクターを起用したことや、現代アートをわかりやすく紹介するようなシナリオによって、低学年から高学年まで楽しんでもらえたのではないかと思います。

協力

岡山市教育委員会

映像制作

特定非営利活動法人
ENNOVA OKAYAMA

案内役

こらぼん♪
岡山市教育委員会広報専門官、教育広報紙「こらぼ」のイメージキャラクター

ももこ
こらぼん♪の妹

三ヶ田 匠吾
岡山芸術交流実行委員会事務局員

https://www.okayamaartsummit.jp/2022/public-program/74/

小学生向けの内容として制作したが、鑑賞支援の教材として、一般・教員向けの講座等でも活用した。

岡山芸術交流
紹介動画概要

全5本の動画は、連続性を持つ内容となっており、01–03では過去・現在・未来の岡山芸術交流を紹介。04–05では参加アーティストへのインタビューの様子や、会場で実際に展示されている作品を紹介し、動画はYouTubeでも公開した。

01 これまでの岡山芸術交流

「過去」に開催した岡山芸術交流で展示されていた3作品を紹介。岡山芸術交流実行委員会事務局員に教えてもらいながら、「こらぼん♪」と「ももこ」と一緒に見て考え勉強していく。

02 今も残る岡山芸術交流の作品

「現在」もパブリックアートとして街中に残る岡山芸術交流の3作品を紹介。

03 これからの岡山芸術交流

アーティスティックディレクターを務める
リクリット・ティラヴァーニャと、参加予定アーティスト
4名のプロフィールや過去作品とともに
今回の特徴や展示予定作品を紹介。

04 アーティストへのインタビュー

この作品を制作した人はどんな人なのか、
どんな考えでを制作しているのか。作品を鑑賞する際の
参考となるよう「こらぼん♪」と「ももこ」が
6名のアーティストへインタビューを行いその様子を紹介した。

05 2022の展示の様子

岡山芸術交流2022で展示されている作品を紹介。
特別ゲストも登場し、お気に入りの作品や楽しみ方を伝えた。

地元協働団体からの声

特定非営利活動法人 ENNOVA OKAYAMA

岡山芸術交流パブリックプログラムとENNOVA OKAYAMAの関わり

初回開催である2016年では「みるを楽しむ!アートナビ岡山」による、岡山芸術交流2016のパブリックプログラムでの対話型鑑賞会実施のための、旧内山下小学校教室を活用した定例会議の開催や、岡山芸術交流の鑑賞企画を開催いたしました。今回の2022では参加アーティストのインタビュー動画や、小学生向けの芸術交流紹介動画を主に制作させていただきました。

紹介動画では、芸術交流に対して、子どもたちに興味関心を持ってもらえる内容とするように事務局スタッフ様と協議しながら内容を詰めていき、完成した動画は学校等で放送いただき、芸術交流に対して子どもたちの興味関心が高まったと伺っています。

岡山市で開催される芸術交流の魅力発信に少しでも寄与できたことうれしく思っています。

「アーティストインタビュー」の制作について

まず今回、参加されるアーティストの皆さんが「今」思っていることやご自身の作品について考えていることなどが聞けたらと思っておりました。

事務局からのアドバイスで、岡山の印象についても、アーティストの皆様からお話をお伺いできたことは良かったと思います。

作品についてキャプションで紹介するより、映像での紹介により各アーティストの表情や仕草を通して伝えることができ、難しい作品内容でもアート鑑賞を見慣れていない方にも理解が深まったのではないかと思います。

映像は短くても、とにかく簡潔になるように心がけました。お忙しい中、撮影に協力してくださったアーティストの皆様には感謝いたします。

「岡山芸術交流紹介動画」の制作について

岡山芸術交流の紹介動画というコンテンツの制作は、今回が初めての試みということで、第１段では素材が少なく苦労しました。小学生向けの紹介動画という事で、作品の見方や、なぜ?どうして?という疑問を作品を観る人がそれぞれに考えてくれるような内容を考え、構成しました。

作品は見る人によって意見が分かれることもあると思いますので、映像の内容が必ずしも作家の意図に合わなくても良いと思いますし、違っても良いと思いながら作りました。

現代美術は作家からの訴えでもあると思います。この作品の作者はこう言ってます!というような一方通行な映像となるより、作品について構成や内容を柔らかくわかりやすくする事を心がけました。

「こらぼん♪」と「ももこ」というキャラクターのおかげで、観る人の立場に立った視点でも芸術交流を紹介することができました。担当してくれた事務局の三ヶ田さんのキャラクターもあり身近な雰囲気を保った紹介動画が作れたと思います。

特定非営利活動法人 ENNOVA OKAYAMAとは

石山公園、旧内山下小学校を中心に岡山カルチャーゾーンの魅力向上、街づくりに関する活動を行っているNPO法人です。ENNOVAの活動目的は団体名「縁と場」が示すように繋がりが薄くなりつつある地域のコミュニティをつなぐことによる「縁の再構築」。そしてそれによる「新たな場作り」です。学びのあるイベントや事業を通して、地域に住む人たち、特に子どもたちにとってよりよい地域となるように活動を行っています。